

令和4年度 BYOD 導入と ICT 活用を手段にした授業等への取り組みの現状と課題

甲府昭和高校（岩下・佐野・根津）

1. はじめに 甲府昭和高校においても国の GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末の運用が開始された。令和 3 年度には Windows 端末（243 台 NEC）が配備され、また令和 4 年度 1 年生からは BYOD 導入により生徒個々が端末購入、持参し、いつでも授業等での利用ができるようになった。併せて、R3 光回線工事により通信速度が上がり無線接続環境がやや改善されるようになった（本校はそれまで最大 100Mbps）。学校における ICT の利活用において、ハード面、ソフト面の充実や、教員及び生徒のスキルアップが欠かせない。手探り状態の中での大変なこれまで 1 年の取り組み状況をまとめながら、今後に生かしたい。

2. BYOD 導入による 1 人 1 台学習端末が利用できるまで

令和 4 年度入学生より、「生徒 1 人 1 台端末を活用した新たな学びを推進します」の案内で生徒は端末を準備し、その後初期設定、校内無線 LAN 接続作業を行った。

（本校の状況）

- | | | | |
|--------|----------------|-------|-------|
| （4 月末） | ・専用 EC サイトより購入 | 219 名 | （92%） |
| | ・独自購入 | 20 名 | （8%） |

※県よりの端末購入費支援制度利用者 10 数名ほど(7%)

- （5 月） ・ID 等は県からの「各種アカウント情報記載用紙」に記入させ、スマホにも保存。

本校では、Microsoft Teams の他 Google Meet、Benesse Classi も利用しているため各自が入学当初に ID 等を記録保存しておくことが大切。この作業は「情報」授業内にて実施した。学校からの案内があるまで独自で PC の設定を行わないことを指示。

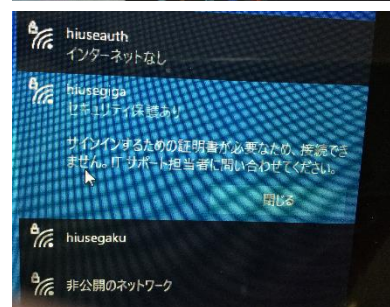
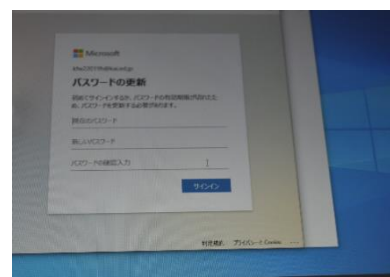
- （6 月末～） ・端末の校内無線 LAN 接続作業

- ・「1 人 1 台端末使用ルール」の提示
- ・校内無線 LAN 接続ができない生徒への個別対応

家庭でのキッティング作業不備や、独自端末の設定諸問題により接続不可生徒（50 名以上）対象。試験的に 7 月には HR 授業等で利用を開始した。しかしながら夏季休業明けに授業等で端末をクラス全員で使用してみると、実は校内 WiFi に接続できていない生徒がまだ 10 数名ほどいることが判明し、さらに個別に対応した。ICT 支援員やヘルプデスクサービスを利用した。

- （9 月末） ・第 2 回定期試験もあったので、全員が BYOD 端末を持参し、HR や授業等で利用できるようになったのは 9 月下旬になった。

- ・朝、端末を忘れた 1 年生には、3 人に 1 台端末を貸し出している。
- ・毎日充電をしないと Windows アップデートができない可能性があるため、生徒は基本的に日々家庭に持ち帰っている。



3. 学習用端末（BYOD, 3 人に 1 台）の授業への利活用

日々の授業等において、ICT を活用した授業を展開している。いくつかの事例を紹介する。

[利用例 1] 朝 SHR (1 学年) 生徒は登校後、各自のパソコンを起動し、Teams を利用して「今日の連絡」を確認し、また Classi で学習記録を入力する。

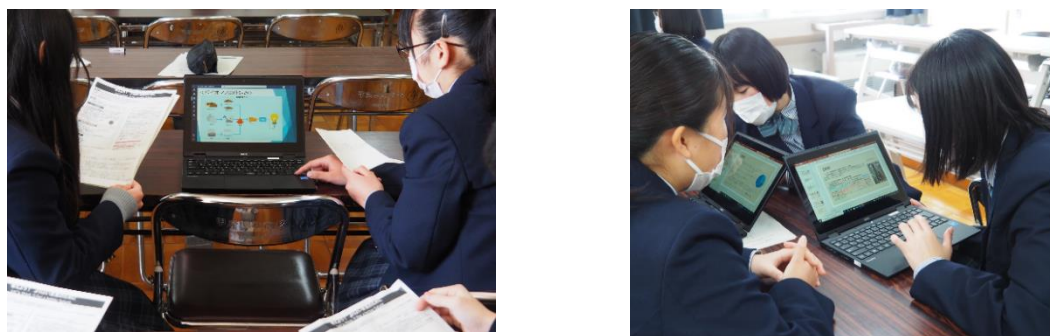
[利用例 2] 英語科「論理表現 I」「コミュニケーション英語 I」でコミュニケーションツールの一つである「Padlet」を活用した授業

英語の質問に対し、各セクションに各自解答を記入する。Padlet は、40 人一斉に解答しても迅速に動き、一つ一つが付箋のようになっているので、誰にでも閲覧しやすい。また、ALT からの英語による質問に対する回答を Padlet 内に録画し、フィードバックを行っている。すべての生徒の解答を、瞬時に把握することができ、また書く、話すの理解度の確認が早く容易にできる。



[利用例 3] 総合的な探究の時間、保健体育科

PowerPoint や Teams を使用して発表用資料の作成 生徒はファイルを共有しながら、共同作業する。



[利用例 4] 国語科 ポートフォリオ作成。数学科 参考書の動画解説の視聴。理科 実験レポート作成

4. BYOD 導入と授業への利活用における学びと課題

- ① 1 人 1 台端末の利用により、資料の検索、作成、確認ができるようになり、学習の幅が広がってきている。ソフトウェアやプログラムの活用の仕方学び、活用することからペンによる筆記よりも記録、処理が容易になる。これからの社会に求められる情報収集や処理、分析の作業を効率化し、思考・判断・表現につなげる学習が可能となっている。またグループでの共同作業も分担しながら進め、統合し、まとめ、発表するなど活用が広がる。データの整理・保存にもつながる。
- ② 教員も ICT ツールを活用し、スキルアップしながらよりよい学びにつなげることができるとよい。
- ③ BYOD 端末 (1 年生) は同一年生が利用するため、ソフトウェアの起動もスムーズである (3 人に 1 台端末に比べ)。
- ④ 今年は、初期設定作業に時間や手間がかかりすぎた。PC リーダーにも負担が多く、改善を願う。
- ⑤ 次年度は、端末購入費が増すことが予想される。今後生徒保護者の負担を考え、また転学退学や卒業時におけるネットワーク接続解除作業、Web コンテンツフィルタの解除等を考えると、まだまだ導入時における課題は多い。県からの連絡 (11 月) にあるように、Windows へのサインインができなくなるとパソコンの初期設定が必要となることも大きな問題である。